

関西民放クラブだより

散策同好会 第157回

「堺・豪商が築いた歴史の町散策、
新施設・利晶の杜訪問」

〈報告①〉

梅雨の中休み、朝からさわやかな快晴に恵まれた6月29日、総勢43名が参加して、意外と知られていない堺の町歩きを楽しみました。午前9時45分、堺観光ボランティア協会に依頼した男女二人のガイドさんの案内で、2班に分かれて、南海本線七道駅を出発。



江戸時代初期の町屋 山口家

特産の刃物製作所が集まる古い町並みを通じて約10分、鉄砲鍛冶屋敷(非公開)へ。堺は戦国時代、わが国最大の鉄砲生産地。

当時の鉄砲技術などの説明をガイドさんから受け、参加者は興味津々。紀州街道を歩きながら「堺の町のイメージが一変しました」と感想を口にする人も。続いて向かった山口家住宅は江戸時代初期建築の元庄屋屋敷。現存する町屋としては我が国最古だそうで、広い土間と重厚な天井の柱、梁が印象的。約40分かけて座敷や茶室を見学し、本願寺堺別院へ。

明治初期に堺県庁として利用された市内最大の木造建造物で、周辺はお寺が非常に多いのにびっくり。16世紀に南蛮貿易で栄え、「東洋のベニス」と謳われた堺も、大坂夏の陣で町が消失、江戸初期に新たな町作り計画に沿って、住宅やお寺の建設ラッシュがあったとか。

妙国寺では、有名な大蘇鉄枯山水の庭園を見ながら、信長や家康も滞在し、茶の湯を味わったという説明を聞く一方、幕末の堺事件(フランス水兵と土佐藩士の衝突で、土佐藩11人が同寺で切腹)に参加者が強い関心を寄せ、隣接の



利晶の杜
(与謝野晶子の軌跡など)

幼稚園の敷地にある土佐藩士のお墓も見学できたのは、ガイドさんのお蔭。

こうして堺の近世歴史遺産の見学を正午に終え、全員、阪堺電車に乗り宿院へ。老舗「美々卯」堺店でおいしいお昼をいただき、午後は今春に開設されたばかりのミュージアム「さかい利晶の杜」へ。「千利休と与謝野晶子」を題材に、映像技術も利用して堺の歴史・文化を体験してもらおう試みとか。結構にぎわっており、仁徳天皇

陵の世界遺産指定に向けて盛り上がる堺市のエネルギーを感じて、参加者は三々五々、帰途につきました。 田仲 和彦(TVO)

〈報告②〉

さて、今回の散策同好会のルー

トは近世から現代への堺を探索することのこと。

集合は工場跡地にショッピングモールを建設中の七道駅前。ここはその昔堺で作られた鉄砲の試射場でもあったとか。僕の知る七道の思い出は座布団を抱え、トイレの臭い、夏暑く冬寒い映画館であったが、今やそんな面影など欠片もなく、これからのように変わるのか楽しみではあるが、狭い道路を含め最寄駅は七道駅だけにアクセスが心配である。

閑話休題、当日のルート、見どころ、参加者の感想は田仲さんの報告にお任せして、もうひとつサプライズのエピソードを。花田口からの阪堺線は幸運なことに、超低床車両の「堺トラム」。車中で偶然にも知人に遭遇、聞いてみると、「今日はこの電車に乗るのが目的」とのこと、堺には乗りテツにも魅力があるようです。

普段は、仁徳天皇陵、履中天皇陵を中心に古墳巡りのウォーキングが日課ですが、今回は堺に住みながら、辿ることのなかったルートで、古代と近現代とが混在する堺の面白さを再確認させていただきました。 北村 一明(ABC)